

編集 後記

本号には原著論文1篇，研究ノート2篇，資料1篇とともに，総会演題集が掲載されています。

平成24年1月より本学会誌の編集委員を拝命しました。それまで他の学会誌の編集を長年務めておりましたが，初回の編集委員会に出席し，カルチャーショックを受けました。公衆衛生学の領域が非常に広く多彩な投稿があること，また投稿者の層が厚いことに改めて驚かされました。編集委員会では，田宮編集委員長を中心に，十分に時間をかけた討議のもとで各投稿原稿の修正や採否に関して厳正な判断がなされており，投稿の段階では荒削りであった原稿が，査読と編集委員会での検討を経て立派な論文に仕上がって行く様を何度も目の当たりにし，私にとっても大変良い勉強になりました。

さて，世間では臨床研究における利益相反（COI）の問題が大きく取り上げられています。降圧剤を巡る問題では製薬企業の社員が解析に関わったことが問題視されていますが，COIが適切に開示されていなかったことと，データがねつ造されていたことと，2つを切り離して考える必要があると思われます。これらは，臨床研究のみならず本誌が主に扱う疫学研究にも共通の課題や懸念がありうると考えられます。

前者については，企業との共同研究だけではなく，近年では社会人大学院生も増えており，院生が自社製品と関連あるテーマで研究を行うことも稀ではありません。この場合，徹底的なCOIの開示とともに，結果の如何を問わず結果の公表を行うなどの取り決めを行っておくこと等が重要と考えます。また，後者については論文審査の段階でこれらの問題をチェックすることは實際上困難であることから，現データを一定期間保管しておくことなど，研究者としてのモラルに任せるだけではなく「無実の証明」ができる仕組みを確保することも検討すべきと思われます。

なお，本稿はあくまでも個人的意見であり，編集委員会の見解ではないことを申し添えます。（池田俊也）

次号予告（第60巻・第9号）

総説

銅を用いた水中の微生物の不活化技術の現状と課題……………岸田直裕，他

原著

介護保険制度導入前後における在宅サービス利用の変化……………松田智行，他

公衆衛生活動報告

群馬県草津町における介護予防10年間の歩みと成果……………新開省二，他

研究ノート

電力不足による節電への態度と身体活動増減認識との関連……………荒木邦子，他

資料

たばこ税・価格の引き上げによるたばこ販売実績への影響……………伊藤ゆり，他